



# 能登町 G I G A スクール構想の推進

## — 教育DX推進と専門的人材を生かした 能登町「令和の学び」のスタンダード —

### ① 1人1台端末の利活用に係る計画

#### 1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

・ICTはこれからの学校教育に必要不可欠なものであり、基盤的なツールとして最大限活用していく必要がありますが、その活用自体が目的でないことに留意が必要です。また、AI技術が高度に発達するSociety 5.0時代にこそ、教師による対面指導や子供同士による学び合い、地域社会での多様な体験活動の重要性がより一層高まっていくものであり、教師には、ICTも活用しながら、協働的な学びを実現し、多様な他者と共に問題の発見や解決に挑む資質・能力を育成することを目指します。

#### 2. GIGA第1期の総括

・第1期が進むにつれ、学習において各教師による端末利用のバラつきが無くなってきています。ICT支援員による業務改善などの提案を受け入れるというフェーズから、それらを判別し、要所にICTを活用するよう自己判断ができるようになってきました。しかしながら、学習支援サービスをより活用した方が良い場面もあり、低学年からの端末の持ち帰り学習を積極的に行うべきとの現場からの声も多く上がっています。

#### 3. 1人1台端末の利活用方策

・端末の整備・更新により、児童生徒向けの1人1台端末環境を引き続き維持することが端末の利活用の前提となります。児童生徒が1人1台端末を使用し、いつでもクラウドにアクセスできる時代を迎える中で、学校教育の質の向上に向けてICTを活用するためには、養成・研修全体を通じ、教師が必要な資質・能力を身に付けられる環境を実現することが必要です。また、事務職員についても、ICTを活用した教育活動に必要な人的・物的資源等の調整・調達などを通して積極的に参画できるよう、ICTに関する研修等の充実を図ります。

現在当町ではICTを活用した学びを充実するため、その技術や活用に知見を有するICT支援員を3名配置しており、その維持継続を図る必要があります。

学校のICT環境は急速に整備されており、今後はこの新たなICT環境を活用するとともに、少人数によるきめ細かな指導体制の整備を進め、「個に応じた指導」を充実していくこと、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を活用し、「協働的な学びの充実」という点でも、授業内外で以下の想定される場面において、1人1台端末を毎日一度は使用していくことが重要です。

基礎的・基本的な教育内容の履修を保障する役割を一層効果的に果たすことが期待される学習者用デジタル教科書については、1人1台端末環境が整備される中、ICTを活用した取組の一環として、普及促進を図り、実践的に活用します。

また、多様な子供一人一人の資質・能力の育成に向けた個別最適な学びを実現する観点からは、1人1台端末環境下でのICTの効果的な活用により、授業の質の向上を図り、児童生徒一人一人の学習内容の理解度・定着度の向上と学びの高度化を図ることが重要です。また、「学びの保障」という点でも、授業内外において不登校児童生徒への支援や、児童生徒への端末を活用した教育相談等の場面において、1人1台端末を活用していきます。

## — 教育DX推進と専門的人材を生かした 能登町「令和の学び」のスタンダード —

### ②ネットワーク整備計画

#### 1. 必要なネットワーク速度が確保できている学校数、総学校数に占める割合

- ・児童生徒が使用するネットワークにおいては全学校において速度確保（1 G b p s ・理論値）ができています。

#### 2. 必要なネットワーク速度の確保に向けたスケジュール

- ・図書室や保健室、体育館、運動場などの一部のエリアで、ネットワークが整備されていない箇所があり、小木中学校が令和6年度末で閉校になることから、7年度から適切な配置を見極めながら、順次そこで使用されていたアクセスポイントを再利用し、不感エリアの解消を図ります。

### ③校務DX計画

各学校と教育委員会事務局間のやりとりにおいて、FAXでのやり取り・押印の見直し、校務の効率化・ペーパーレス化を図ります。また、校務系と学習系端末を1台に集約しており、現時点においても、校務系システムを閉域網で運用するのではなく、ゼロトラストの考え方に基きアクセス制御によるセキュリティ対策を十分講じた上で、校務系・学習系ネットワークを統合しています。

校務支援システム（教務・保健・学籍等）においては、パブリッククラウド上での運用を前提に、クラウド化し、保護者側の利便性を考慮し、従前通り紙媒体を使用しながらも、汎用のクラウドツール（グループウェア、保護者連絡、備品管理等）と連携します。今後は、クラウド上やサーバ上に存在する様々なデータを自動的に収集、分析、加工して簡潔にまとめ、集計値や表、グラフなどで視覚的に分かりやすく一覧化した画面を創出します。

### ④端末整備・更新、その他環境整備等の計画

	令和年度	7	8	9	10	11	12
① 学校数		8	8	7	7	7	7
② 児童生徒数		579	551	535	507	471	439
③ 予備機を含む児童生徒用端末整備台数（予備機含む・5年に一度）		650	0	0	0	0	505
④ 教職員用端末整備台数（5年に一度）		0	0	0	80	44	0
⑤ ICT支援員人数		3	3	3	3	3	3
⑥ G I G A スクールネットワークサーバー整備 （考え方）		—	—	—	—	—	実施

① 令和7年度に小木中学校が、9年度に松波中学校が能都中学校に統合されます。

③ 令和2年度に1人1端末の整備が完了、法定による耐用年数の4年が経過しており、令和7年度に町内全児童生徒分の端末を更新します。

④ 令和5年度に小学校教職員用端末更新が、6年度に中学校教職員用端末更新が完了し、法定による耐用年数の4年が経過する令和10年度、11年度にそれぞれ更新します。

⑥ G I G A スクールネットワークサーバー（中継機含む）の耐用年数が経過する令和12年度に整備を行うのが望ましいと考えます。